

2020 第 1 回外洋常任委員会

開催日:2020 年 6 月 26 日(金)18:00-19:30

会議の方法:Web 会議 (Zoom)

出席者:

(理事関係)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務理事、平松隆理事、
橘田佳音利理事、作田智恵子理事、菊池邦仁理事、新田肇理事、大島茂樹理事、
中村和哉理事、安田大助理事、宇都光伸理事、大村雅一(新常務理事候補)、
望月宣武(新理事候補)、岩瀬善貞(新理事候補)中村隆夫(新理事候補)

(委員会関係)

八木達郎外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長
三浦信郎レース委員会外洋小委員長、同小委員長代理清水教男)
日下部大蔵ルール委員会外洋規則小委員会委員長
小林昇前国際委員会外洋委員会委員長、
船澤泰隆(国際委員会外洋小委員会委員長)
鈴木一行国際委員会外洋小委員会委員、金子純代キールボート強化委員会委員長
服部好彦ジャパンカップ委員会委員長、植松眞オリンピック外洋小委員会委員長
寺澤寿一 JSAF 事務局長

議長:坂谷

本日までの役だが、進行役として今後常務理事で会を進行していく大村さんをお願いしたい。

大村さんが議長になりスタートした。

出席者は別紙のとおり

馬場副会長あいさつ

今回コロナ禍の影響で初めての Web 会議となったが、却って多くの方に出席いただくことになった。

パラオレースはレースだけでなく、パラオに OP を送るなど、国際交流としても成功した。

海外ではオリンピックの新種目の導入によりダブルハンドレースが増えている。

オリンピック選手も活動を始め、コロナの影響で止まっていた活動もようやく動き始めたようだ。

外洋常任員委員会においても、今後どのように進めていくか皆で共有していきたい。

1. 新旧メンバーの紹介:大村

新メンバーの紹介と旧メンバーへのねぎらいの言葉があった。

旧各メンバーからは一言ご挨拶があった。

2. 外洋推進グループ 2020-2021 体制案について:大村

外洋推進グループ組織図が提案された。

外洋常任委員会にWGもメンバーとすることとした。今回は艇登録制度WGがメンバーにカウントされた。

それぞれの担当理事は、前回の継続を主として新規理事を割り振ったが、変更希望がある場合は後日申し出ること。

3. 外洋艇グループ内規改正案

上記でもWGのメンバー受け入れの説明があったが、これについては内規の改正が必要で、内規に改正については団体長会議での審議が必要になる。

4. コロナ禍ガイダンスについて

JSAFガイドラインを補う形で、外洋レース等再開に向けてのガイダンスを、専門委員会の協力のもと作成した。

あくまでガイドラインやガイダンスであり、共用するものではない。規則ではなく参考。

その時々々の状況、開催地の行政、地域との情勢をふまえてレースを開催する。

WSガイダンスにおいては、カテゴリー3では65歳以上の参加はNGとしているが参考ということで、検討して欲しい。

これに関しては、外洋系加盟団体、特別加盟団体に配信し、自団体だけでなく、その水域のクラブ、レース関係者にも周知をお願いした。

その他、参考文書

セーリング競技に関わる大会等再開時のガイドライン

「セーリング競技大会の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」に沿った実施例(案)

外出自粛の段階的緩和の目安、

イベント開催制限の段階的緩和の目安(その1)、

World Sailing コロナウイルス(COVID-19)外洋ヨットレース大会主催者のためのガイダンスとその補遺(COVID-19 非常事態医学対応計画)

5. 2020 外洋混合世界選手権の中止と 2024 年に向けたダブルハンド外洋レースの動向: 鈴木一行(オリンピック小委員会)

準備を進めていたマルタ島でのダブルハンド世界選手権の予選レースは、コロナ禍で中

止となった、またマルタ島での世界選手権も中止となった。

しかし、この6月WSが今後発展するダブルハンドレースに向けてHPに専用セクションを設け、来年10月にはマルタ島で男女混合ダブルハンド外洋世界選手権の開催 を発表。世界は外洋ダブルハンドレースが盛んになる模様。

JSAFとしても50マイル以上のダブルハンドレースを盛んにするための広報活動が必要。

八木: 来年の世界選手権への予選レースについてもオリンピック外洋小委員会で早急に準備を進めていく。

来年の春までには決めたい。今年のレースでは和歌山の中村理事に尽力いただいた。

6. 大学生の JSAF 会費免除について

新田: 三崎においては登録の大学生の会費を免除ということか。

大村: 免除と寄付は別物。JSAF 会費分を免除。加盟団体費は大学のクラブから県連等に登録の学生は団体へのバック金は未定だが、外洋登録学生のバック金は JSAF に集まった寄付金から支払われる。

作田: 大学から県連等に登録の場合の大学生は、会員番号でも区別されるので判別可能であるが、問題は外洋団体に一般で登録している学生をどうやって見つけ出すかということ。

これについては、関係する団体で随時確認するしかないが、案内文を作り団体長会議において配布したい。

また、事務処理が大変なので、今年はすべて登録で、来年の登録を免除ということにしてはどうか。

大村: 今年アルバイトが無くなって大変な学生を救うことが大前提なので、これから登録する会員には大学生か否かを確認し、学生の場合は免除ということをお願いしたい。

7. パラオレース報告書

大村: 報告書の体裁について、スポンサーへの報告書としては問題ないが、成績表もない、レース委員長の名前・プロテストの状況も無いので JSAF 並びに外洋 4 団体等共同主催者へのレースの報告書としてはお粗末。

JSAF のレース報告書にのっとして提出いただきたい。

平松(共同主催三浦): 三浦の理事会ではあまりに収支が合いすぎておかしいとの意見が出た

作田(共同主催湘南): サバイバルトレーニングの支出は計上されているが収入が計上されていないように思う。

橘田(パラオレース運営): みらいへ関係の支出が多すぎると思う、乗船したものとして内訳を知りたい。

新田: 大村氏からはすでに実行委員会に申し出があり、再提出を準備しているがこれらの

指摘も持ち帰り検討し報告する。

8. 2020 事業計画:大村

すでに 2 月に事業計画をご提出いただいたが、コロナ禍のため変更があると思うので、JSAF では 8 月 10 日までに見直し案の提出を依頼済み。

その他、2 月時点では提出依頼のなかったルール委員会外洋規則小委員会、レースマネジメント委員会外洋小委員会の事業計画についての報告があればお願いしたい。また、今回から参加の艇登録制度 WG の事業計画についてもお願いしたい。

外洋計測委員会:八木

8 月 10 日までに、ORC, IRC ともに見直す。

ルール委員会外洋小委員会:日下部(別紙)

7 月 10 日に最初の会議が開催される。別紙内容についてはそこで検討するので案としての提出。

外洋レースにおけるジャッジの発掘、育成に注力する。特にクラブにおいて発掘、育成を行っていく。

2021 年はルール改正年、7 月に上がってくるのでその時点ですぐ翻訳を始める。本来オリンピックの翌年のルール改正であるが、今回はコロナ禍でオリンピックが延期になっているが、改正は予定通りで延期しない。1 月 1 日から施行。オリンピックは新ルール。

作田:ルールブックの販売はいつからか?

また、講習会はいつ行うのか?1 月 1 日から新ルール採用とのことですが、間に合うか?

日下部:アップされ次第、翻訳にかかり、11 月には販売の案内を出す予定。

Web 版も出す予定。

ジャッジの講習会は A 級に関しては年内、B 級に関しては年明け。

使用は 1 月 1 日からだが、クラブレースなどは臨機応変で。

レースマネジメント委員会外洋小委員会:清水(三浦代理)

8 月 10 日の提出日に向けて計画の見直しをしている。

今年度の外洋合同会議の幹事役で、横浜での開催を予定しているが、状況によりノーマルな開催方法のほかにも検討をしていく。

WS のマネジメントマニュアルにおいて外洋レースに関する追記の翻訳を進めていく。

外洋計測委員会と連携し、今後も継続して IRC レースファイルの配布を行う。

予算はレースマネジメント委員会でまとめて行う。

艇登録制度 WG:作田

① ワーキンググループのメンバーの確定

- ② 艇登録に関する業務運営事務局設定の検討
- ③ 艇登録制度、および規則の見直し
 - セールナンバーの発行等
 - 提出書類の再考、新規登録艇の確認
- ④ 会員管理システムの艇登録関係の整備
- ⑤ 支援艇登録、抹消艇データの整備
- ⑥ 艇登録管理団体への運用の周知

9. 6月27日開催の評議員会、理事会について:大村

評議員会への質問等は書面での提出、それについては回答済みだが、そのほかに何かあれば共有したい。

鈴木一行:すでに問題提起した件については回答をいただいているが、以下3点を強調共有したい。

補助金における事業費用途の透明性。

コロナ禍での減収の中での資金繰りについて。

評議員に対しては責務をとしての発言、意見のお願い。

10. 第13回全国外洋加盟団体長会議(9月26日開催)について:大村

東京湾が幹事団体で、横浜中華街での開催を準備している。

これに対し以下意見があった。

作田:懇親会は中華とのことだが、大皿料理ではないですね。

八木:会費と懇親会費を分けて欲しい。

宇都:経済主体で動き出したが、医者的見地から第2波を懸念。決定はいつ行われるか。

変更の期限はいつか? Webでの参加も検討して欲しい。

以上に対し馬場副会長から発言があった。

馬場:コロナに関しては個々で考え方も違うので、それを尊重し、強制するものではない。

Web、リアルの両方を交えたハイブリッドで検討していきたい。

大村氏からはこれらの意見を東京湾に伝えるとの発言があった。

11. その他

平松氏から各水域でのレース再開について情報を共有したいとの意見があった。

平松:相模湾水域では8月にレースが始まる。ただしパーティー等は行わない。

坂谷:東海は8月のレース開催に向けて検討中。

馬場:関西ヨットクラブでは6月21日のレースから再開、パーティーはなく成績発表のみ。

宇都:南九州では三島カップも中止になり、今は、レース活動は停止、様子を見ながら、他を参考にしながら秋から再開したい。

最後に坂谷常務理事から挨拶、小林さんは委員長は退くが今後も ORC コンgressとして残る。中村さんは ODC 委員長を継続、オリ特として外洋レースにもかかわっていく。

以上